

研究指定校における取組

研究指定校名 : 須坂市立旭ヶ丘小学校

1. 学校の概要

学校名	須坂市立旭ヶ丘小学校
学級数	通常学級：8学級、特別支援学級：2学級
児童生徒数	全児童生徒数212人（平成30年4月1日現在）
URL	http://www.asahigaoka-school.ed.jp/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

友とかかわりながら、人権感覚を育てる指導のあり方
～自己肯定感を高め、自他共に認め合える学級づくりを通して～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

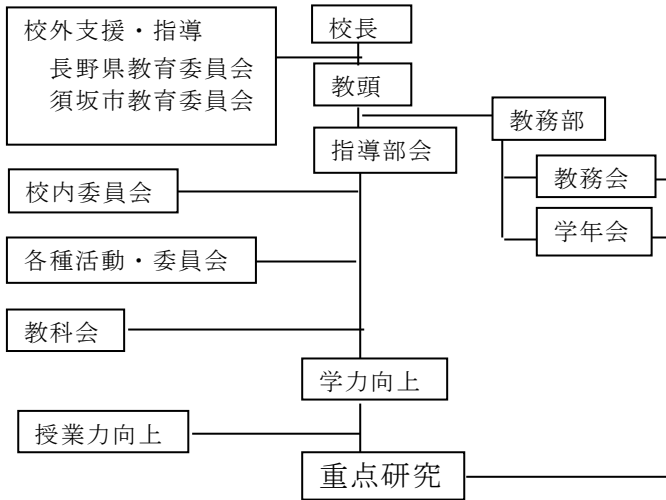
旭ヶ丘小学校では、全校重点研究テーマ「互いにかかわり、考えを伝え合って学びを高める集団の育成」を掲げ、授業展開の工夫、授業のユニバーサルデザイン化の推進、考えを伝え合う場面の設定等に取り組み、学力向上につなげる授業改善に努めてきた。そして、人権教育においても友とのかかわりを大切にしながら、豊かな人間関係を築くことを目指して取り組んできた。しかし、学校評価の児童評価集計では、自分の考えや意見を伝えることを苦手とする児童が多いことが分かった。また、生活の中では、相手に悲しい思いをさせたり傷つけたりする言葉を言ったり態度に表したりすることが行われている場面も見られた。相手への配慮に欠け、自己中心的な主張になることもあり、それが学級集団の中で他を振り回す事態を引き起こす要因になることもあった。そこで、自尊感情を高め、他者理解を深め、豊かな人間関係構築を基本とする学級づくりが人権感覚を育てる大事な柱になるのではないかと考え、本テーマを設定した。

人間関係を把握するために「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U調査)を実施し、学級の実態に基づいたソーシャルスキル教育や構成的グループエンカウンター、対人関係ゲーム等の学習を取り入れ、学級集団の人間関係向上を図っていきたい。そのために外部講師を招聘して職員研修を行い、また道徳の学習の充実、人権にかかわる諸問題、同和問題等々の課題についての学習の充実を図っていく。さらに、副読本「あけぼの」の活用や「須坂市人権同和教育指導計画」の確実な実施を行う。それらの具体を、授業研究を通して探っていきたい。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	○
②子供	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	○
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	○
⑩犯罪被害者等	○
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	○
⑮その他（ ）	

3. 調査研究の推進体制



調査研究の推進（重点研究部を中心に）

一年次の成果と課題

対人関係ゲームの実践と継続
年間指導計画の見直し

- ・ Q-U調査の分析と活用
- ・ 人間関係づくりゲームの再研修と実施
(含 市内各校への発信)
- ・ 人権教育月間（6月、11月）の実施
- ・ いじめ調査の実施
- ・ 「あけぼの」の活用
- ・ 「須坂市人権同和教育指導計画」の実践
- ・ 人権まとめ集会（保護者参観）の実施
- ・ 三校人権教育研修会の計画立案

二年次の公開と検証

公開授業と研究会の実施

児童及び教職員の変容の把握と分析
まとめ

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

学校評価の児童評価集計から、自分の考えや意見を伝えることを苦手としている児童が多いことが分かった。そのために、学級集団の中で相手の配慮を欠いたり自己中心的な主張になったりする場面も見られた。

(調査研究の内容)

様々な人権問題を自分に関わりのある問題としてとらえるために、また、そうした問題を学級の全員が考え合うためには、個々が自尊感情を高め、他者理解を深めていき、よりよいかかわり合いの経験の蓄積によって開かれた学級集団づくりをしていく必要がある。そのために対人関係ゲームを取り入れ、友だち同士、そして児童と教師のよりよいかかわりあいを求める実践を継続してきた。併せて各学年の指導計画に基づいた様々な題材の学習を重ねてきた。

(実施方法・検証・評価)

①検証方法

- ・ Q-U検査の結果（親和的でまとまりのある学級集団）
- ・ 人権教育月間における児童の発言、作文、標語などの内容、その後の感想等
- ・ 人権教育月間における友だちの良いところの指摘や子ども同士のかかわり
- ・ 人権学習まとめ集会における児童の発表の内容と参加態度、参観した保護者の反応
- ・ 公開授業及の実施および参会者の反応、各学級の学力定着の検証

②成果

- ・ 児童については、心が温かくなる言葉や行動の「バトンタッチ」を年間通して意識することで、学級集団にまとまりが見られるようになった。秋（10月）のQ-U検査では、公開授業学級以外でも多くの学級が「親和的でまとまりのある学級集団」の判定となり、要支援群に該当する児童の減少も見られた。
- ・ 教職員の人権感覚の高まりが見られた。これまで見逃しがちだった児童のトラブルについても、教職員間で「これはいじめ事案になるのではないかと」話題に挙げるようになり、いじめ事案として積極的に認知するようになった。
- ・ 人権教育月間中、相手のよいことや、自分がされてうれしかったことを書いて掲示する「なかよしの木」では、6月の月間より11月の月間の方が、友の言葉や行動について、より具体的に書かれるようになった。保護者からは、「子どもたちの心の育ちがよくわかる」「いじめや差別をいやだと思ふ気持ちが育っている」といった感想が寄せられた。

- ・児童会が中心となつて行う「なかよし集会」では、役員の児童が、参加者全員が楽しめるゲームを提案したり、みんなが楽しめていたかという観点で児童会の企画を振り返ったりしていた。活動を通して自尊感情が高まった結果、自分に自信をもち、さらに積極的に児童会活動に臨む姿が見られた。
- ・4年の授業学級では、算数の授業を通して、教え合ったり、じっくりと話を聞き合ったりする学習場面を設定してきた。11月の公開授業後、児童の発言、学習カードでは、「話をしっかり聞いてもらえて気持ちよかった」「友だちが『いい考えだね』と言ってくれてうれしかった」等の感想が多く登場していた。単元テストでも、自分の考えの筋道が伝わるように書こうとし、難しい問題もあきらめず、最後まで解こうとする姿が見られた。

(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
○ 4月 11日	○ 第1回研究推進会議（教務会） ・研究方法、内容について検討・確認	職員 9名
○ 4月 初～中旬	○ 年間計画立案 ・研究主任から出された計画を受けて年間計画作成。課題の洗い出し、テーマの見返し、研究授業日の調整 ・重点研究会の年間計画の作成 ・職員会で研究の方向確認 毎回の職員会で現状を発表し合う時間を確保	職員 16名
○ 4月 24日	○ 職員研修会 ・「対人関係ゲーム」について 指導者 東京福祉大学教授 田上不二夫先生 松本大学教育学部教授 岸田幸弘先生	職員 16名 他校からの 参加2名
○ 5月 23日	○ 第2回研究推進会議 ・推進についての検討と方向確認	職員 16名
○ 5月 29日	○ なかよし班活動開始（児童集会） ○ 第1回Q-U検査の実施 ・学級満足度プロット図および学校生活意欲集計表の作成依頼	全校児童職員 検査対象 2～6年児童
○ 6月	○ 人権教育月間① ・全校で友だちとの接し方や人権について確認 ・「いいところさがしの木」作成と各学級掲示	
○ 6月 5日	○ P T A 講演会 講師 松本大学教育学部教授 岸田幸弘先生	保護者・職員 90名
○ 6月 11日	○ 人権教育校内授業① 3年敬組 音楽 指導者 岸田先生	職員 16名
○ 6月 20日	○ なかよし班活動（児童集会）	全校児童職員
○ 7月 4日	○ 人権教育校内授業② 4年愛組 算数 指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事 小林 誠先生	職員 16名
○ 7月 9日	○ 人権教育校内授業③ 1年敬組 体育 ○ 職員研修会 ・講師を招き、研究の方向等を指導いただく。 講師 岸田幸弘先生 ・Q-U検査の分析、考察、実践	職員 15名
○ 8月 7日	○ 学級づくり、授業づくり研修 指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事 小林 誠先生	高学年部会 7名
○ 8月 29日	○ 第3回研究推進会議 ・推進状況の確認・修正	職員 16名
○ 9月 19日	○ 第4回研究推進会議 ・推進状況の確認・修正	職員 16名
○ 9月 25日	○ 人権教育校内授業④ 4年愛組 算数 指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事	職員 16名

	小林 誠先生	
○10月10日	○第5回研究推進会議 ・推進状況の確認、修正	職員16名
○10月15日	○人権教育校内授業⑤ 6年敬組 算数 ○職員研修会 指導者 岸田先生 ・講師を招き、研究の方向等指導していただく。 ・3年敬組のQ-U分析と1回目との比較検討	職員15名
○10月16日	○第2回Q-U検査の実施 ・学級満足度プロット図および学校生活意欲集 計表の作成依頼	対象 1～6年児童
○10月31日 ○11月	○第6回研究推進会議 ・推進状況の確認、学習指導案全体検討 ○人権教育月間② ・「思いやりの木」作成、掲示 ○児童会秋祭り&焼き芋大会 ・なかよし班の活動を含む児童会行事 ・姉妹学級交流会	職員16名 全校児童職員
○11月20日	文科省指定人権教育研究大会 授業公開 ・全校研究授業・授業研究会 ・県教委指導主事(小林先生)と岸田先生による 指導 ・講演会 講師 岸田先生	参会者 全80名 資料印刷数 110部
○11月28日	第7回研究推進会議 ・研究内容で明確になってきた内容をまとめる ・今後の推進日程および研究紀要のまとめ方等 について確認	職員16名
○11月30日	人権学習まとめ集会(全校参観日) ・参観授業として実施 ・親子で人権教育について考え合う	全校児童職員 保護者 約100名
○12月5日	○職員会 ・今年度研究の成果・課題のまとめ ・研究主任による研究全体のまとめ方確認	職員16名
○1月9日	○職員会で研究のまとめ、振り返り、研究紀要 の印刷製本配付スケジュール確認	職員16名
○1月30日	○第8回研究推進会議 ・研究のまとめ	職員16名
○2月	○資料のまとめ	30部 職員分と引き 継ぎ、提出分